



わきむら こうざぶろう

脇村 孝三郎 氏

生年月日 大正 4 年 7 月 20 日生

住 所 田辺市上屋敷町

大正 4 年 (1915 年) 7 月 20 日、西牟婁郡田辺町 (現田辺市中屋敷町) において脇村市太郎、ゆき夫妻の三男として生まれ、大正 10 年 (1921 年)、叔父、脇村民次郎、たか夫妻の養子となる。

昭和 14 年 (1939 年) 3 月、東京帝国大学 (現東京大学) 経済学部を卒業後、東京海上火災保険株式会社に入社されるが、その後召集を受け兵役に就き、昭和 20 年 (1945 年) 終戦後、家庭の事情により東京海上を退社、帰郷する。

帰郷後は、実父市太郎氏の事務所に勤めた後、昭和 22 年 (1947 年) に東富田村農業会に就職、さらに和歌山県信用農協連合会に勤め、県下の農協の経営指導などに奔走していたが、昭和 29 年 (1954 年) に退職、実父の林業経営を引き継ぎ、現在に至る。

氏は、幼少のころより文学、映画、演劇などに親しむ一方、野球やラグビーなどのスポーツもこよなく愛し、昭和 26 年 (1951 年) 田辺ラグビークラブを結成、続いて熊野高等学校、田辺高等学校のラグビー部創設を指導され、当地方のラグビーの草分けとなる。

昭和 32 年 (1957 年)、財団法人 脇村奨学会が創立された後、常務理事として会の運営はもとより、こまやかに奨学生の指導を続けられ、多くの優秀な人材を育成される一方、脇村奨学会において、美術展覧会の開催に尽力されるなど、地域の芸術・文化の向上発展に努められている。

さらに、昭和 38 年 (1963 年) 田辺市立図書館が新築されて以来、図書館協議会委員として、また昭和 59 年 (1984 年) からは会長として図書館の運営を指導されてきているほか、県民文化会館文化事業委員や田辺第九の会初代会長、和歌山県文化懇話会委員、紀南文化会館運営委員等、文化に関わる多くの役職を歴任、昭和 62 年 (1987 年) からは田辺市の誇る世界的民俗・博物学者南方熊楠翁を顕彰するため設立された南方熊楠邸保存顕彰会の副会長として、熊楠翁の偉業の顕彰に尽力されるなど、田辺市はもとより、和歌山県全体の文化の発展・向上に広範にわたり、大きく寄与されており、これまで優秀な人材の育成と、文化の向上に尽くされた功績には計り知れないものがある。

第 27 回 (平成 8 年)

(略 歴)

昭和 14 年 (1939 年) 3 月	東京帝国大学経済学部経済学科卒業
昭和 14 年 (1939 年) 4 月	東京海上火災保険株式会社入社
昭和 15 年 (1940 年) 5 月	兵役
昭和 22 年 (1947 年) 9 月	東富田村農業会に就職
昭和 24 年 (1949 年) 4 月	和歌山県信用農協連合会に入職
昭和 29 年 (1954 年) 3 月	和歌山県信用農協連合会を退職 脇村事務所において林業経営
昭和 32 年 (1957 年) 1 月	財団法人 脇村奨学会創立、常務理事に就任
昭和 44 年 (1969 年) 11 月	有限会社 脇村不動産部設立、代表取締役就任
平成 5 年 (1993 年) 4 月	財団法人 脇村奨学会常務理事を退任、顧問となる
昭和 31 年 (1956 年) 10 月	田辺市教育委員
昭和 38 年 (1963 年) 11 月	田辺市立図書館協議会委員
昭和 45 年 (1970 年) 11 月	田辺市総合計画審議会会長
昭和 46 年 (1971 年) 1 月	田辺市都市計画審議会委員
昭和 46 年 (1971 年) 4 月	和歌山県民文化会館文化事業委員会副会長
昭和 54 年 (1979 年) 12 月	田辺第九の会初代会長
昭和 58 年 (1983 年) 10 月	和歌山県文化懇話会委員
昭和 60 年 (1985 年) 4 月	田辺市経済懇話会委員
昭和 61 年 (1986 年) 9 月	紀南文化会館運営委員
昭和 62 年 (1987 年) 10 月	南方熊楠邸保存顕彰会副会長

(受賞歴)

昭和 52 年 (1977 年) 4 月	第 28 回全国植樹祭において林政功労表彰
平成 6 年 (1994 年) 5 月	田辺市市政功労者表彰 (自治功労)